

# 令和5年度 5月 人権一口講座



## 「アフターコロナ・新しい生活が始まります」

先日読んだ新聞に「卒業や入学、入社式等に関する記事」が載っていました。令和5年になり、学校や企業では式典への出席人数の制限が無いところもありました。また、マスクの着用についての制限もかわり、個人の判断に委ねられた現代社会の映像等が流れています。

令和元年からのコロナ感染拡大防止の取組みによって、人々の生活がかなり変化しました。特に、学校ではその全ての学期において制約があり、多くの児童生徒がそのルールを守りながら窮屈な学校生活を過ごしました。

約3年間続いた制限の中を過ごしたことで、「今春は顔の見える状況で生活したい！」と望む意見は多いでしょう。けれど、まだ慎重な意見を唱える声もあり、今後の状況は不確かなものです。

私も含め小中学校の保護者たちは、感染拡大防止策期間中においても十分な配慮や対策をして、会議や催しを行ってきました。特にこのコロナ禍での決まり文句「児童生徒を集めて催し物は行いますが規模を縮小しての開催とします。」「私たちはこの約3年間の動きに慣れてしまっているとの意見もあります。

行事への考え方も変わり、ある行事は短時間での参加が可能になったから良かった！とか、屋外等で長時間開催する行事も減ったことで熱中症等への対策やケガ等の回避ができるようになった、との声もあるのです。しかし、考え方は人それぞれに分かれ、その意見をすべて聞くことと実行することが困難になるおそれがあります。

しかしながら諸分野の専門家の声はそれとは違い、この「コロナ禍から明けた今がチャンスである」といいます。特に教育関係において、これから通常授業や学校行事が、学校と生徒らの「できなかつたことを一緒にやれる連帯感」により、魅力あるものが増えていく！との見解でした。

今後の「アフターコロナ」は、オンライン等で行う部分を積極的に利用することで、文化祭や運動会等に新たな魅力を生みだしていくことになるのではないのでしょうか。多くの皆さんの意見が反映され、新たな学校と家庭の協力が生まれていくことを期待しています。

(令和5年度広報誌かけはし5月号人権一口講座より)



短いメッセージ

わたしに見せて きみのえがおを  
わたしに聞かせて きみの心の声を

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 託麻東小学校3年 大嶋璃々さん(令和4年度の作品より)